



第1回ハッチネットセミナー

八王子市幼児教育・保育センター
連絡先 042-673-3707

令和6年6月6日(木)18:30～20:30 八王子市役所本庁舎会議室

第1部 講義「足から育つ、子どもの運動機能」－靴選びってどうしたらいいの？－



講師 島田療育センター 理学療法士
駒崎 舞 氏

参加人数:112名

以下の4点を中心に講義をしていただきました。

- 1 島田療育センターの理学療法士について
- 2 子どもの足と大人の足について
- 3 足が発達していくための運動について
- 4 靴の選び方について

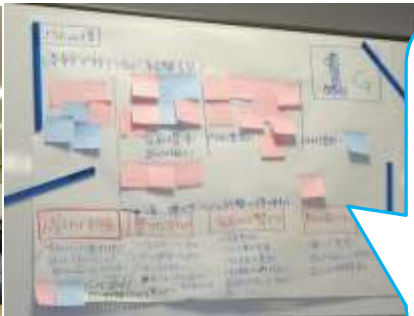
専門的な話をわかりやすく
解説していただきました。



第2部 グループワーク(事例検討)

「ひろし君(仮名)に、どのようなことをしてあげるといいでしょうか？」

【事例】園の様子は、みんなと一緒に遊ぶなどに参加はするが、ジャンプは苦手で、片足立ちでふらふらしてしまうことがある。また、みんなが砂場遊びをしても室内で過ごしていることが多い。家の様子は、外遊びが嫌いで、家でゲーム、携帯で動画を見ることばかりしている。～中略～ひろし君(仮名)に、どのようなことをしてあげるといいでしょうか？



グループ討論の後、各グループに発表していただきました。

～幼児教育・保育アドバイザーより～

子どもは、能動的な体験を積み重ねることにより、自己肯定感を高めていくものです。大人が子どもに何かをさせるのではなく、子ども自身がやってみたいと思えるような環境構成や、行動を起こす契機となるようなモデルとなることも大切です。

アンケートからの感想(一部抜粋)



- ・足からのアプローチで発達を促すことの重要性を確認でき、大変有意義でした。
- ・足のアーチの形成に靴がこんなにも重要な事だと知らなかったので学びになりました。
- ・異業種の方との交流が大変面白く、いろいろな観点からケースについて検討することができました。

次のハッチネットセミナー(予定)



明星大学 心理学部 心理学科 教授 小貫 悟 氏

日時:令和6年9月5日(木) 18:30～20:30 場所:八王子市生涯学習センター

※詳細につきましては、別途お送りします。





第2回ハッチネットセミナー



八王子市幼児教育・保育センター
連絡先 042-673-3707

令和6年9月5日(木)18:30~20:30 八王子市生涯学習センター クリエイトホール

講義 「教室の中で学習に苦戦する子供たち」～合理的配慮シーズを見つけるために～



講師 明星大学 教授
小貫 悟 氏

参加人数:83名

以下を中心に講義をしていただきました。

- ・通常学級に在籍する発達障害とは (LD・ADHD・高機能自閉症)
- ・「合理的配慮シーズ」の早期発見について
- ・授業ユニバーサルデザインについて (授業のユニバーサル化モデル)
- ・「成功体験の確保」を「成長の実感」につなげる



～幼児教育・保育アドバイザーより～

「授業のユニバーサルデザイン」とは、特別支援教育を指しているのではなく、インクルーシブ教育として、通常学級の中で皆が成長できること。困り感のある子に注目して、授業の内容を視覚化、共有化、焦点化するなどの合理的配慮が、実は他の子どもにとっても有効な手立てとなることと理解しました。障害の個人因子の変化のみに捉われることなく、環境因子の充実を図ることが大切です。

アンケートに寄せられた感想(一部抜粋)



- ・シーズ、種を見つけるという考えが柔らかくて素敵です。目が出て育つイメージがあるので。ありがとうございました！
- ・合理的配慮シーズは幼少期の頃に見つけ、早いうちに支援できるとそのこどもの未来が広がることを学びました。子どもが周りとは違うのではなく、自分自身の成長を感じられるように関わっていきたいです。
- ・発達障害のある子を担任していますが、その子を想像しながら話を聞きました。普段、一緒に生活をしていると、周りの子と比べてできないことの方が目立ってしまい、焦点を当ててしまっていたなと気づきました。できることや、どうすればできるようになるかを考えて、子どもと関わっていきたいと思いました。

次のハッチネットセミナー(予定)

東京都立大学 人文科学研究科 名誉教授 浜谷 直人 氏

日時:令和6年11月7日(木) 18:30~20:30 場所:八王子市教育センター

内容:「障がいのある子どもの人権と主体性」ー未来の子どもが育つ場を創るー





第3回ハッチネットセミナー

八王子市幼児教育・保育センター
連絡先 042-673-3707

令和6年11月7日(木)18:30~20:30 八王子市教育センター大会議室

第1部 講義 障がいがある子どもの人権と主体性 未来の子どもが育つ場を創る



講師 東京都立大学 名誉教授 浜谷 直人 氏

参加人数:91名

以下を中心に講義をしていただきました。

- 1 こども基本法と子どもの権利条約
- 2 合理的配慮における集団指導上の課題
- 3 多様性・平等・差別
- 4 障がいの社会モデル



第2部 グループワーク(事例検討)

M君(特別支援対象児)に対して、子どもの人権、とりわけ意見表明権と参加する権利を大切にするという観点からそれぞれの立場(教諭・保育士・園長・主任・外部の専門職等)で話し合ってください。

【事例】M君は、入園当初からことばの遅れがあり、集団に入らず、一人遊びをしていることが多かった。お集りや食事場で、席に座っていると、立ち歩き、奇声を発するなど、周囲の子どもの嫌がることをする様子が頻繁に見られた。午睡時は室内を走り回り、他児を踏みつけることがあり、別室で個別対応をしていた。～中略～M君に、どのようなことをしてあげるといいでしょうか？



グループ討論の後、各グループに発表していただきました。

～幼児教育・保育アドバイザーより～

その子のできないことばかりに着目するのではなく、今、何を面白がっているのか感じ取り、没頭する体験が多く積み重ねられる環境を整えることが重要だと考えます。障がいの有無にかかわらず、自己肯定感の高まりによって、様々なことにチャレンジする意欲が育まれていくものです。

アンケートからの感想(一部抜粋)



- ・非常に考えさせられるご講義でした。今までは褒める保育がこどものためと思っていましたが、解釈が違ったことを学び、今後の保育に活かしていきたいです。
- ・浜谷先生のお話を踏まえながら、様々な園や職種の方々と意見を交換することができて、とても勉強になりました。
- ・様々な視点からひとつのケーススタディが面白かったです。

次のハッチネットセミナー(予定)



「アタッチメントの問題がある子どもの対応について」 帝京大学 文学部 心理学科 教授 近藤 清美 氏

日時:令和7年2月6日(木) 18:30~20:30 場所:八王子市教育センター※詳細につきましては、別途お送りします。